

フサヒゲルリカミキリの概要

1. 種名（学名）

カミキリムシ科 フサヒゲルリカミキリ
(*Agapanthia japonica*)

2. 環境省レッドリストランク

絶滅危惧 I A 類 (CR) 2020

3. 種の特徴

成虫は体長15～17mm。体は黒から紫藍色、上翅は紫藍から緑藍色の弱い金属光沢を持つ。触角は第1、3節端がフサ状、雌雄とも上翅端を越す。終齢幼虫はやや長い円筒型で、長さ16mm内外、幅3.4mm、腹部の厚さ3mm、胸部の厚さ4.2mm程度。体色は淡褐色で、頭部は黒褐色、前胸背板は前方が暗色、全体的にやや光沢がある。蛹化時には地中に植物繊維質で形成された簡素な部屋を造り、その中で蛹化する。蛹はやや長い円筒型、長さ14mm内外、幅4mm弱、体色は乳白色で光沢がある。上翅は腹部第3節基部に届く。触角は下方に延びて中央直前で側面へと曲がり、中脚と後脚の間を通過して腹面に達し、そのまま上方へと向かい頭頂部を越える。



©高桑 正敏

寄主植物であるユウスゲの生育する湿地から草地に限って生息する。成虫は初夏～盛夏に出現し、ユウスゲの葉を後食する。メスはユウスゲの花茎に産卵し、幼虫はそれを食べて育ち、根茎内で越冬、翌年に外で蛹化し、羽化脱出する。

4. 分布域

北海道と本州（岩手県、群馬県、神奈川県、山梨県、長野県、鳥取県、岡山県、広島県）で記録があるが、2000年代以降では長野県と岡山県に限られていた。2020年現在、確実に生息が確認されているのは岡山県のみ。

5. 存続を脅かす要因

草地・湿地環境の変容、開発、シカの増加による食草への食害、乱獲

6. その他

- ・長野県希少野生動植物保護条例における特別希少野生動植物に指定され、捕獲等が禁止されている。
- ・岡山県の生息地において、日本チョウ類保全協会等により生息環境の維持・創出などの取組が実施されている。
- ・環境省と昆虫飼育施設（足立区生物園・伊丹市昆虫館）との連携により、平成30年度より飼育下繁殖に取り組んでいるが、越冬技術の確立ならびに飼育下個体群の維持には至っていない。